

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第9回
議事要旨**

1. 日時 平成15年6月30日(月) 14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 中西副委員長, 相澤委員, 阿辻委員, 倉島委員, 神津委員,
古賀委員, 輿水委員, 柴田委員, 関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 中山委員,
山崎委員
4. 会議の概要

(1) 第2回中間発表に向けての作業について

第2回言い換え対象語58語中、言い換え提案の基本姿勢に関わる検討を要するもの、言い換え語の選択に検討を要するものなど、重要な問題を含んでいると思われる語を取り上げ、前回の検討を踏まえ、更に集中的に検討を進めた。

(2) 会議での主な意見

イ. 「ノーマライゼーション」

ろう者にとって、ろう文化は非常に大切で、ろう文化を伝承していくのは、ろう学校である。それを「ノーマライゼーション」の思想で一般学級に、バラバラに入れられてしまったら、ろう文化の継承が出来ない。「ノーマライゼーション」は多文化共生に反するとの意見がある。

中途失聴者、難聴者の人たちは、逆に「ノーマライゼーション」で、健聴者の社会に入ろうと努力している。そういうそれぞれの立場や思想が関わってくると、言い換えそのものが成り立たなくなり、難しい問題がある。

「ノーマライゼーション」は社会全体の概念に相当ぶれがある言葉と思われる。「等生化」を言い換え語の1番目、「福祉環境作り」を2番目にして、手引きに言い換え語句の周辺の言葉を入れ、中間報告するのはどうか。

「等生：とうせい」というと「統制：とうせい」と同音になるが、同音衝突をそれほど恐れなくともいい。

ハンデがあることは知っていて欲しい、それを前提として一緒に暮らせるような社会にすることを考えて欲しいとの意見がある。

「福祉」はやはり「健常者が何となくやってあげている式」のニュアンスが強くなる。「福祉」を残すとすれば、手引きを丁寧に書く必要がある。

ロ. 「アーカイブ」

「記録保存館」がいい。記録管理学会のホームページを見ると、欧米では、記録と文書とが明確に分けられているが、日本では記録と文書とが厳密に使い分けられていないと掲載されている。「保存記録」という意味も、「図書館」という意味も一緒に出てくるので、困ったことになる。

保存する場所としては「記録保存館」で、記録したものは「保存記録」。一見紛らわしいが、日本語としてはこれでよい。

ものと建物を並べるのであれば、「保存記録」「記録保存館」でしかるべきだが、「もの」を指す場合には「資料」でいいという考えもある。「コンピューター用語では、複数のファイルの一つにまとめたものを「ライブラリー」と呼んでおり、圧縮したファイルを「アーカイブ」と呼んでいるようだ。

ハ. 「アイデンティティー」

エリクソンの著書では、青年期における自我の発達段階についてのところで「アイデンティティー」が使われていて、その文脈では「自己同一性」がよく分かる。青年期はまだ自我が十分発達していなくて、周りの人を見ながら発達していくうちに、

自我というものの統一感がとれてくるということと言わんとしているから、訳者は苦労して「自己同一性」という言葉を使ったのではないか。

用例をみると、ほとんど社会学で使われている「アイデンティティー」に傾斜し、心理学で使われている意味が抜け落ちていたので、言い換え語としては「同一性」を残しておいたほうがいい。心理学でいう「アイデンティティー」は、エゴというものと非常に関わって説明されているので「自我認識」という言い換え語はいいように思う。

第1回目の提案を受けた一般の方に、この委員会は外来語狩りをしているのではないか、漢語に戻れということをやっているのではないかという誤解が相当あったように思う。そうすると「自我」というのはいかにも硬い漢語という感じがするので「自己認識」のほうがいい。

概念からこの言葉にたどり着くが、逆に言葉からこの概念にはたどり着きにくい面がある。日本語では「アイデンティティー」が心理学的な言葉ではなくて、むしろ独自性であるとか、独立性、インディペンデントという意味で使われているので、「独自性」という言葉を入れないでいいのだろうかという気がする。

もともとは心理学用語で、社会心理学や社会科学にも使われている。「アイデンティティー」を英和辞典で見ると、作風とか芸風という意味も出てくる。誤用ともつかない用例があった時、分からない外来語を減らすためには、こういう場合には、この日本語で十分と提案することが現実的ではないか。

これまで「自己同一性」という訳語が用いられてきたが、一般には分かりにくいので新たな言い換え語を提案するというのはどうか。

用意した言い換え語からたどっていくときに、「アイデンティティー」にたどり着けるかというところで、「帰属意識」はたどり着けない代表例である。「帰属意識」「独自性」「自己認識」これらを全て言い換え語とした場合、使い分けができないから今までどおり「アイデンティティー」を使おうということにならないか心配だ。

「独自性」や「帰属意識」という言い換えがふさわしい「アイデンティティー」の用例も一緒に挙げ、この場合は「帰属意識」に言い換えられているけれども、本来の「アイデンティティー」の用法とは若干違うといったコメントを付け加えるくらい丁寧に説明してもよい言葉ではないか。

「アイデンティティー」の用例を「独自性」で全て言い換えることができる。要するに日本人はほとんど「独自性」という意味で使っている。今までの「自己同一性」や「自己認識」、「自我認識」では分かりにくいので、用例を見ても「独自性」であまり違和感がないので「独自性」としてはどうか。

二.「オンライン」

コンピューター以外で、例えば「われわれオンラインでいこうぜ」といったような用例が世の中にあると思う。そういった例を探し、その例が出てきたときに、どういうニュアンスで日本人が使っているのかというところを探っていくことが必要ではないか。

「接続回線」では、状態が表せないが、「回線接続」ならば状態のようなニュアンスが出せるのではないか。

ホ.「コピキタス」

手引きで語源を説明するのであれば、専らコンピューターやネットだけで使われているのは日本での現象なので、その後「日本では」との限定を付け加えた方がよい。

「遍在」とする案には、強く反対したい。片寄りである「偏在」とあまねくある「遍在」の二つあるが、音で聞いた場合に、文脈から言ってもどちらか分からない。また、コンピューター環境は、あるところでは非常に充実しているが、他方ではまったくない状態があるので、偏ってあると思っても仕様がなない。文脈の中で非常に誤解されやすいので、「遍在」だけは止めてほしい。また「コンピューター」と「イン

ターネット」は、日本語として非常に拍数が長い部類の語なので、たとえば「コンピューター」を「電脳」とすれば「電脳自在」という言葉ができる。

以上